

(町長提案理由の説明)

本日ここに、12月定例会を招集し、私の町長として2期目就任後、初の定例議会となりますので、町政運営に対する基本方針と所信の一端を申し上げます。

改めて、こうしてこの場所に立ちますと、町政運営を担うこととなるその職責の重さに、身の引き締まる思いであり、これからの4年間、町民の負託にしっかりと応えできるよう、全力で邁進しなければならぬと感じております。

私は、2期目の町政を進めるに当たって、1期目と同様に3つの公約を掲げました。1期4年間の中で、公約を果たせた施策がある一方、まだまだ不十分な点や新たな施策が求められることも少なくありません。町民が“住み続けたい”と思うまちづくりに向け、お約束した3つの公約の着実な推進に取り組んで参ります。

まず、公約の大きな柱として位置付けた「安全・安心な生活環境づくり」であります。

快適な生活環境を実現させるため、保健・福祉・介護・医療分野での様々な事業を継続し、見直しが必要な部分は、適時見直しを行い、町民福祉の向上に取り組んで参ります。新型コロナへの対応としては、ワクチン接種など国・県の対応に遅れることなく、注意喚起や感染防止対策に注力して参ります。

高齢者の除排雪支援や過疎高齢化による集落機能の維持・活性化は、町の大きな課題となっております。除排雪支援に重点的に取り組み、集落支援の充実など、町民が安心して継続して暮らしていける仕組みづくりを進めます。

防災対策については、町民の生命と財産を守る安全・安心なまちづくりの基本であるにとらえ、就任以来、防災対策の充実・強化を図って参りました。防災行政無線のデジタル化事業は完了しましたので、今後は、更新時期を迎えている各家庭内の防災行政無線戸別受信機やかねやまネットテレビ設備について、計画的に更新を進めて参ります。防災マップについては、前回発行から6年が経過し、新たな危険区域も追加されましたので更新を行います。

また、今年度から始めた町管理河川の浚渫事業についても、引き続き事業を継続し、安全・安心なまちづくりを進めて行きます。

新たな取り組みとして、町内全地域で使えるWi-Fi整備を行い、災害時の情報伝達手段の多種多様化と通信環境の改善による生活利便性の向上を目指します。このWi-Fi環境整備事業につきましては、通信費の負担軽減や観光面での活用以外にも、防災行政情報の伝達、高齢者の見守りや移住・定住の促進など多方面での活用が可能となりますので、多くの町民の皆さんにご利用いただけるよう、その利活用について議員の皆さんと今後、協議して行きたいと考えております。

道路交通関係では、県代行により工事を行っている町道中川・大栗山線について3年後、令和7年度開通を目指し、事業を進めて参ります。その後、大栗山地区までの2車線化を図る計画です。

次に、「地域資源を生かした産業の振興」です。

農業分野では、集落営農の奨励と支援、農地の集積と生産性の向上、新規就農への支援などを積極的に行い、担い手の確保を推進してきました。こうした中で、奥会津金山赤カボチャ生産者協議会が、農林水産大臣表彰を受賞したことは、誠に喜ばしい事であります。今後は、今年度設置した農産物加工所を充実・発展させ、金山の特産物である赤カボチャやエゴマなどのブランド化の推進による付加価値の向上と、稲作と合わせた複合経営を指導し、カスミソウ栽培を含めた新規就農者の確保を図ります。

農業用水・生活用水施設の維持管理について各集落で大変苦慮している現状もありますので、それらの対応についても支援をして行きます。先述した河川の浚渫事業についても、防災の他、用水の安定的確保という目的を持って行うものです。同様に、新たに空冷堰改修事業に取り組めます。空冷沢の取水口について、出水時のゲート操作をリモートで行えるよう改修を行うもので、来年度から3か年計画で

事業を進めます。

商業分野では、コロナ禍における観光客や消費の落ち込みにより、経済が低迷しています。引き続き、プレミアム商品券を発行し、町内消費の維持を図りながら、ＪＲ只見線による観光客の誘客と観光需要の掘り起こしを行います。金山の資源には、埋もれている地域の自然や歴史、文化など、多種多様なものがあり、それらを有効的に活用し、効果的な情報発信により交流人口・関係人口を増やし地域経済の立て直しを図ります。

今年度、横田中丸城跡登山道整備事業を進めるため、測量設計を行っていますが、来年度から２年をかけて登山道整備を行う予定です。郷土の歴史・文化を町民だけでなく、町出身者や観光客など様々な方に伝え、興味をもってもらうための取り組みとなります。

地域の活力は、実際にそこに住んでいる人が動いているその姿であると常日頃思っております。その例として、特定地域づくり協同組合「かね福」が設立されたことは、すばらしい事であり、農家民泊など新たに起業される方も増えています。今後も、地域・団体・事業者が自ら行うことについて、積極的に支援するなど「やる気応援」を進めて参ります。

ＪＲ只見線については、本年１０月１日に全線運転再開され、それ以降、多くの観光客が利用されています。現在、福島県を中心に第二期只見線利活用計画の策定作業が進められています。今後も、福島県や沿線市町村、関係機関と連携し、利活用促進、ＰＲ活動、環境整備に努め、地方創生路線として滞在型の誘客を促進したいと考えております。

次に、「次代を担う若者・子育て世代の支援」です。

過疎・少子高齢化が進む金山町にとって、一番の課題は人口減少です。次代を担う若者を支援し、定住を促進するため、現在の施策「学びの１８年」事業を継続するとともに、適時見直しを行います。移住・定住を進めるためにも、事業のＰＲだけでなく、金山で暮らす価値・魅力の創造を前面に押し出し、本町の強みを生かした積極的な情報発信を進めます。

また、観光振興のほか、ふるさと納税を通じた関係人口の創出、さらには移住・定住へと繋がるための支援制度や住宅施策の充実など、移住定住対策の取り組みを積極的に進めて参ります。今年度、移住支援センターを開設しました。移住希望者に金山の良さを知ってもらう取組みに力を入れて行きたいと考えています。町内の若者の結婚・婚活支援にも力を入れていきます。

子供が集える公園整備については、中川農村公園の再整備とともに一体的に整備する予定です。道の駅に隣接した場所に、遊具等を設置するほか、農村公園を再整備し、道の駅の充実を図ります。

県立川口高等学校への支援については、現在実施している地域みらい留学プロジェクト事業を継続します。今までの取組みにより、入学希望者も増加する兆しがあり、この流れを変えることなく、コロナ禍で実施できなかった生徒募集の取組みを強化していきます。

自然教育村会館については、今年度、改修の実施設計を行っています。来年度から工事に着手し、金山町の歴史・民俗を次世代に継承するための施設として、資料の展示と体験・交流を行う場として活用する他、町の活性化に資する事業にも活用したいと考えています。

以上、２期目に当たり、私が最初に取り組みたい内容についてその一端を述べさせていただきました。第五次金山町総合計画で掲げる「町の将来像」の実現に向け、これまでの施策をしっかりと継承・発展させつつ、新たな取り組みにも着手して参りたいと考えております。

解決すべき課題は山積しております。今後、進めていかなければならない事柄を着実に実施し、成果・効果を発現させるために、議員の皆さんとの十分な議論・対話が必要不可欠です。お互いに理解を深めながら、車の両輪のように、一丸となって取り組んで参りたいと考えておりますので、引き続き、議員の皆様、町民の皆様の御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

１２月定例会の提案理由の説明とさせていただきます。